

※ 今週のアウトルック (7/6~7/10)

先週は、水曜日に発表された米国ADP雇用統計が良好な結果であったため、一時的に円安が進みました。その後、木曜日に発表された米国非農業部門雇用者数が、予想を下回るものであったため、一転して円高が進みました。

今週は週明け早々の、ギリシャ国民投票の結果に大きく左右されそうです。反対派が勝利した場合は、ある程度までユーロ売りが進むことが予想されますが、賛成派が勝利した場合、難しい状況となる可能性が高いように思います。ギリシャの政権交代なども予想されるため、当面は混乱が続くことには変わりはなく、一時的にせよ、ユーロ売りが進むのか、それとも先を見越してユーロの巻き返しが起こるのか。また、東京市場、欧州市場、NY市場それぞれの受け止め方が異なるようにも思います。今週は非常に神経質な動きになってしまうかもしれません。

先週ドル円は、ADP雇用統計の結果を受けて上昇し、非農業部門雇用者数の結果を受けて、下落する結果となりました。

今週はギリシャの国民投票の結果に大きく左右されそうですが、賛成派が勝利した場合の動きについては、大きく意見が分かるように思います。ただ、リスク回避レンジがもう一段進む可能性はあるように思いますが、ドル高転換の可能性は、今週は低いように思います。

ドル円の予想レンジは121.5円から124円です。

先週ユーロ円は、月曜日にユーロ安が134円付近まで大きく進みましたが、その後は持ち直し、136円付近で小康状態を保っています。

今週はギリシャ国民投票の結果に大きく左右されそうですが、賛成派が勝利した場合の今後の展開が読みづらくなるように思います。また、反対派が勝利した場合でもユーロ売りは一時的で、今後の展開をユーロにとっては肯定的に捉える見方も出てくるかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは130円から140円です。

ポンドもギリシャの国民投票の結果に左右されそうですが、円安方向には進みづらい状況になるように思います。

ポンド円の予想レンジは187円から195円です。

今週は、ギリシャ国民投票の結果を受けて、各市場がどう反応するか注目が集まるところですが、EUのギリシャへの今後の対応について、要人発言には十分注意する必要があります。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。